

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 2

年次報告書



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

## ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

### 今井 敬

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を実施してまいりました。

2012年度は、協会の主要事業である「コスモス国際賞」の受賞者にアメリカのハーバード大学名誉教授のエドワード・オズボーン・ウィルソン博士を選出いたしました。博士は、社会性昆虫であるアリの研究分野で卓越した業績を上げ、その科学的知見を活かして人間の起源、本性などの研究に努めた方です。コスモス国際賞20周年を記念した博士の講演会（東京・大阪）には、高校生を含む1,700名余の参加者にお集まりいただき、大変意義あるものとなりました。

普及啓発・継承発展事業におきましても、花と緑に関する国際交流、調査研究助成など様々な活動を行い、有意義な成果をあげることができました。

本書は、これら2012年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

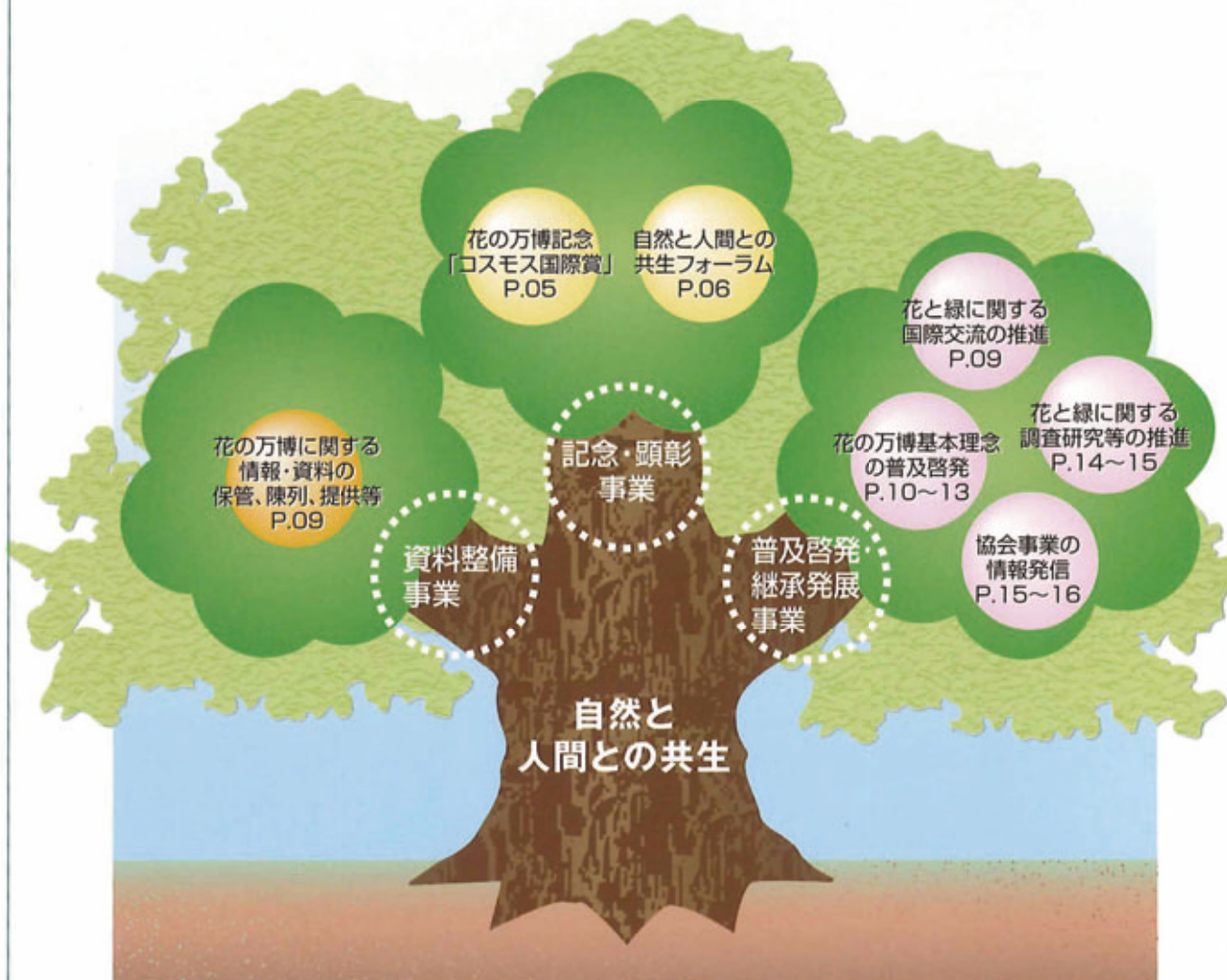
最後になりましたが、2013年度は、4月1日に公益財団法人へ移行いたしましたことに鑑み、これまでの実績を踏まえた更なる事業推進はもちろん、公益法人にふさわしい活動を進めてまいりますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 皇太子殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者エドワード・オズボーン・ウィルソン博士は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。  
(平成24年10月26日 東宮御所にて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる様々な事業を実施しています。



#### 設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをかくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であると考えられる。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・  
顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

「自然と人間との共生」という理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2012年(第20回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者14名(国内10名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及び学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業が実施されました。

<2012年(第20回)受賞者の選考・決定等>

第1回賞委員会(平成23年10月18日)

第1回選考専門委員会(平成24年1月14日)

第2回・第3回選考専門委員会(平成24年5月29日、6月1日)

第4回選考専門委員会(平成24年6月29日)

第2回賞委員会(平成24年6月29日)

2012年コスモス賞受賞者にエドワード・オズボーン・ウィルソン博士(ハーバード大学名誉教授)を決定

第74回理事会(平成24年7月23日)

賞委員会の決定を承認し、同日内外の報道機関に対し、記者発表等を実施

第3回賞委員会(平成24年10月29日)



2012年(第20回)コスモス賞受賞者  
エドワード・オズボーン・ウィルソン博士  
ハーバード大学名誉教授

アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めたほか、生物多様性保全や環境教育を推進する実践家として活動している。

2012年  
(第20回)

コスモス賞

授賞式等の開催

国内外の賓客及び招待者約450名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時：平成24年10月29日(月) 午後3時～午後5時

場 所：いずみホール [大阪市中央区]

出席者：約450名

次 第：開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 主催者紹介 来賓紹介(パトリック・リネハン駐大阪・神戸米国総領事館総領事、梶原康弘農林水産大臣政務官、佐藤憲雄国土交通省大臣官房審議官、小河保之大阪府副知事、田中清剛大阪市副市長)

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介 受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会



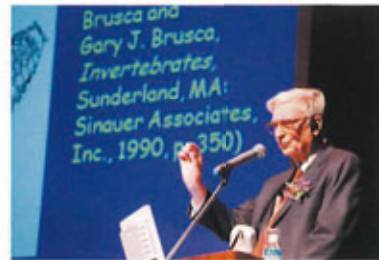
記念・  
顕彰事業

自然と人間との共生フォーラム(コスモス国際賞受賞者記念講演)

コスモス国際賞授賞式の関連行事として2012年受賞者エドワード・オズボーン・ウィルソン博士および1993年受賞者ギリアン・フランス卿による講演会を開催しました。

また、次世代を担う青少年育成のため、本フォーラムに東京・大阪で合わせて870名の高校生を招待しました。

	● 東京	● 大阪
日時	平成24年10月25日(木) 午後4時～午後6時	平成24年11月1日(木) 午後3時～午後6時
場所	東京大学安田講堂 [東京都文京区]	エル・おおさか エルシアター [大阪市中央区]
講演	テーマ 生命の未来 ～Future of Life～ 講師 2012年(第20回)コスモス国際賞受賞者 エドワード・オズボーン・ウィルソン博士(ハーバード大学名誉教授)	講師 2012年(第20回)コスモス国際賞受賞者 ギリアン・フランス卿(1993年コスモス国際賞受賞者、 エデン・プロジェクト科学部長)
付属 事業	講師等 受賞者紹介 松下和夫 (コスモス国際賞選考専門委員会委員長、 京都大学大学院教授) 対談 エドワード・オズボーン・ウィルソン博士 長谷川眞理子 (総合研究大学院大学教授)	講師等 受賞者紹介 岩槻邦男 (コスモス国際賞委員会委員、 兵庫県立人と自然の博物館館長) 講演 ギリアン・フランス卿 (1993年コスモス国際賞受賞者、 エデン・プロジェクト科学部長)
参加者	約800名	約500名
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ大使館	



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成24年1月1日現在

- 委員長 岸本忠三 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
- 副委員長 古在由秀 日本学士院第2部部长
- 委員 岩槻邦男 兵庫県立人と自然の博物館館長
- 委員 尾池和夫 財団法人国際高等研究所所長
- 委員 グンナー・オーグスト 元スウェーデン王立科学アカデミー事務局長
- 委員 黒川清 元日本学術会議会長
- 委員 小山修三 国立民族学博物館名誉教授
- 委員 A.H.ザクリ 元国連大学高等研究所所長
- 委員 鈴木昭憲 東京大学名誉教授
- 委員 中村桂子 JT生命誌研究館館長
- 委員 オーレ・フィリップソン 博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
- 委員 ギリアン・フランス卿 エデン・プロジェクト科学部長
- 委員 松下和夫 京都大学大学院地球環境学堂教授
- 委員 村上陽一郎 東洋英和女学院大学学長

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成24年1月1日現在

- 委員長 松下和夫 京都大学大学院地球環境学堂教授
- 副委員長 武内和彦 東京大学サステナビリティ学連携研究機構長・教授
- 委員 秋道智彌 総合地球環境学研究所名誉教授
- 委員 今福道夫 京都大学大学院名誉教授
- 委員 餌取章男 東京工科大学客員教授
- 委員 加藤雅啓 東京大学名誉教授
- 委員 野家啓一 東北大学大学院文学研究科教授
- 委員 鷺谷いづみ 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- 委員 エンダン・スカラ インドネシア科学院副院長
- 委員 ジェームズ・エドワーズ アメリカ国立自然史博物館「生命の百科事典」監修

## コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生物学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)  
ギリアン プランス卿  
Sir Ghilleain Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長  
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)  
ジャック フランソワ バロー  
(物故)  
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授  
太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)  
吉良 龍夫  
(物故)  
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授  
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)  
ジョージ ビールズ シャラー  
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長  
40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

第5回 平成9年(1997)  
リチャード ドーキンス  
Dr. Richard Dawkins



イギリス・オックスフォード大学博士  
1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

第6回 平成10年(1998)  
ジャレド メイスン ダイアモンド  
Dr. Jared Mason Diamond



アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授  
医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

第7回 平成11年(1999)  
ウー チェン イー(呉 征鎰)  
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長  
地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した「中国植物誌」の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

第8回 平成12年(2000)  
デービッド アッテンボロー卿  
Sir David Frederick Attenborough



イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者  
野生生物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。

第9回 平成13年(2001)  
アン ウィストン スパーン  
Prof. Anne Whiston Spirn



アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授  
「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。

第10回 平成14年(2002)  
チャールズ ダーウィン研究所  
The Charles Darwin Research Station



エクアドル  
ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

## コスモス国際賞歴代受賞者

第11回 平成15年(2003)  
ピーター ハミルトン レーブン  
Dr. Peter Hamilton Raven



アメリカ・ミズーリ植物園園長  
花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。

第12回 平成16年(2004)  
フーリャ カラビアス リジョ  
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授  
常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げた。

第13回 平成17年(2005)  
ダニエル ポーリー  
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授  
幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。

第14回 平成18年(2006)  
ラマン スクマール  
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授  
ソウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

第15回 平成19年(2007)  
ジョージナ メアリー メイス  
Dr. Georgina Mary Mace



イギリス・ロンドン大学NERC(自然環境調査会議)  
個体群生物学研究センター所長兼教授  
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行った。

第16回 平成20年(2008)  
ファン ゲン ホン  
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授  
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、マングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。中でもカンザー地区のマングローブ林再生・保全は世界で類のないものである。

第17回 平成21年(2009)  
グレッチェン カーラ デイリー  
Dr. Gretchen Cara Daily



アメリカ・スタンフォード大学教授  
人類社会が依存する生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、生態学・経済学を統合し、自然資本の持続的な利用のために「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

第18回 平成22年(2010)  
エステラ ベルゲレ レオポルド  
Dr. Estella Bergere Leopold II



アメリカ・ワシントン大学名誉教授  
父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」を継続、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。また、現在でも人々の暮らしと社会の中に土地倫理を組み込む活動を続けている。

第19回 平成23年(2011)  
海洋生物センサス科学推進委員会  
Scientific Steering Committee of  
the Census of Marine Life:SSC



海洋生物の多様性、分布、生息数についての現在、過去を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システム(OBIS)という統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測する、壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」(CoML)を主導した。

第20回 平成24年(2012)  
エドワード・オズボーン・ウィルソン  
Dr. Edward Osborne Wilson



アメリカ・ハーバード大学名誉教授  
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めたほか、生物多様性保全や環境教育を推進する実践家として活動している。

※肩書きは受賞時のものです。



資料整備  
事業

花の万博に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

映像による  
日本植物誌  
(PPH)

PPH (プラント フォト ハンティング) とは、日本の野生植物4,000種を植物学者等が動画で撮影したもので、850時間におよぶ貴重な映像が蓄積されています。協会はこれを元に作品化してきましたが、平成24年度は、今まで制作した39作品を大阪府営服部緑地都市緑化植物園に貸出し、放映しました。



情報等の提供

各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	1件
企業及び個人等	4件

普及啓発・  
継承発展  
事業

花と緑に関する国際交流の推進

BIEコスモス賞  
への支援

花博記念協会の存在とコスモス国際賞を国際的にPRするため、BIE (博覧会国際事務局：本部パリ) と当該博覧会協会が主催する「BIEコスモス賞」に参画、支援しました。

平成24年度は、BIEと麗水万博協会 (韓国) が実施した「BIEコスモス賞」の受賞者「The Living Ocean and Coast: Diversity of Resources and Sustainable Activities (最重要種の保護とエコツーリズムに重点を置く沿岸地域共同体プログラム)」への賞金2万ユーロを提供しました。授賞式は麗水万博のBIEデーである平成24年8月11日に行われました。



フロリアード2012  
出展業務

2012年フェンロー国際園芸博覧会において、日本国政府出展会場内で映像による日本庭園の展示を行うと共に国際交流、造園技術の普及のため我が国の造園技法等の講座を開催しました。



## 2012年度事業実績

### 普及啓発・ 継承発展 事業

#### 花の万博基本理念の普及啓発

##### ◆コスモスセミナーによる普及啓発

「自然と人間との共生」という理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き実施しているもので、平成24年度は、次のとおり屋外での自然観察（フィールド型）セミナーと、小学校への講師派遣型セミナーを行いました。

#### コスモスセミナー 「自然観察教室」 ～生まれ昆虫 好きな子供たち 2012～

開催日：平成24年8月7日(火)～8月9日(木)  
場 所：関西学術研究都市清滝・室池地区「アイ・アイ・ランド」[大阪府四條畷市]  
講 師：保田 淑 郎（大阪府立大学名誉教授）  
久留飛克明（箕面公園昆虫館館長）  
谷 幸 三（晴れの国野生生物研究会会長）  
南 尚 美（奈良生物研究会幹事）  
参加者：近畿圏の小学5年～6年生、中学1年生 31名  
後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、  
四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、  
日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、  
日本生態学会、日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館



#### コスモスセミナー 小学校講師派遣

テーマ「昆虫とは？」昆虫の生態や命の連鎖について  
日 時：平成24年6月15日(金)（5・6時間目）  
場 所：吹田市立東佐井小学校 [大阪府吹田市]  
講 師：谷 幸 三（晴れの国野生生物研究会会長）  
久留飛克明（箕面公園昆虫館館長）  
参加者：小学校3年生 125名



テーマ「生き物の体のつくりや成長について」  
日 時：平成24年6月27日(水)（3・4時間目）  
場 所：亀岡市立南つづじヶ丘小学校 [京都府亀岡市]  
講 師：谷 幸 三（晴れの国野生生物研究会会長）  
参加者：小学校3年生 67名



テーマ「昆虫の生態や命の連鎖について」  
日 時：平成24年11月18日(日)（3・4時間目）  
場 所：大阪市立城東小学校 [大阪市城東区]  
講 師：谷 幸 三（晴れの国野生生物研究会会長）  
参加者：小学校3年生 63名



テーマ「昆虫・生き物がすむ環境について」  
日 時：平成25年1月17日(木)（2・3時間目）  
場 所：大阪市立すみれ小学校 [大阪府東大阪市]  
講 師：谷 幸 三（晴れの国野生生物研究会会長）  
参加者：小学校3年生118名、4年生 139名



テーマ「樹木・里山について」  
日 時：平成25年1月25日(金)（6時間目）  
場 所：奈良市立大安寺西小学校 [奈良県奈良市]  
講 師：谷 幸 三（晴れの国野生生物研究会会長）  
参加者：小学校5年生 83名



テーマ「いのちの循環」  
日 時：平成25年2月4日(月)（3・4時間目）  
場 所：大阪市立鯉江東小学校 [大阪市城東区]  
講 師：谷 幸 三（晴れの国野生生物研究会会長）  
参加者：小学校5年生 62名



コスモスセミナー  
小学校講師派遣

テーマ「いのち ～人と生き物がともに生きる～」  
日 時：平成25年2月8日(金) (3時間目)  
場 所：葛城市立新庄小学校 [奈良県葛城市]  
講 師：谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)  
参加者：小学校6年生 143名

テーマ「生き物のいのちについて」  
日 時：平成25年2月19日(火) (4時間目)  
場 所：大阪市立森ノ宮小学校 [大阪市城東区]  
講 師：谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)  
参加者：小学校3年生 14名

テーマ「昆虫について」  
日 時：平成25年2月21日(木) (2時間目)  
場 所：大阪市立焼野小学校 [大阪市鶴見区]  
講 師：谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)  
参加者：小学校3、4年生 88名



◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第22回(2012年)  
全国花のまち  
づくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールに、次のとおり参画しました。

応募数：1,382件

入 賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ25点  
表彰式

開催日：平成24年10月25日(木)

場 所：法曹会館 [東京都千代田区]

受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会

[(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(公財)日本花の会、  
(財)都市緑化機構、(財)日本花普及センター]



(国土交通大臣賞)

花育活動  
推進事業

花や緑に親しみ・育てる機会を通して、やさしさや美しさを感じる気持ちを育む花育活動の取り組みを全国的な運動として推進する全国花育推進協議会に参加し、関係団体とともに、マニュアル、小中学校用副読本の作成、講習会やセミナー等の実施などの事業を行いました。

花とみどりの  
復興活動  
支援事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行いました。

公募期間：平成24年4月1日(日)～平成25年3月31日(日)

支援件数：8件

支援総額：2,000,000円



花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会



女川桜守りの会

## 2012年度事業実績

### 普及啓発・ 継承発展 事業

#### ◆花の万博開催の地元における普及啓発（府市理念継承事業）

花の万博開催の地元において理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

##### 第28回 大阪府 都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かな街づくりを進め、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的とした第28回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会の事業紹介パネルの展示を行いました。

開催日：平成24年10月27日（土）・28日（日）

場 所：池上曾根史跡公園 [大阪府和泉市]

来場者：約97,000人

内 容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など

主 催：第28回大阪府都市緑化フェア実行委員会



##### 第2回 みどりの まちづくり賞

緑のまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的に賞に参画、実施し、会長賞を授与しました。

##### 公園利用促進 広報事業

花と緑の拠点である18府営公園でのスタイリッシュな過ごし方、利用活用の紹介並びに協会の紹介を盛り込んだ、誰でも気軽に手に取って楽しめる情報誌2万部を産経新聞社とともに作成しました。

##### はならんまん 2012

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された各種事業に対して支援を行うとともに、協会の事業紹介パネルの展示を行いました。

開催日：平成24年11月10日（土）・11日（日）

場 所：長居植物園ライフガーデンエリア [大阪市東住吉区]

来場者：約11,700人

主 催：大阪市



##### “みどり”の ネットワーク構築 検討プロジェクト

「みどりの風の道効果測定調査研究事業」として道路の中央分離帯の整備効果について様々な角度からの検証および効果を継続的・定量的に把握する調査に支援しました。

#### ◆地域協働事業

花の万博の理念継承及び普及啓発のため、平成24年度から地方公共団体、企業、ボランティア、住民等と協働しての花と緑のまちづくり事業を開始しました。

平成24年度は花の万博開催地である大阪をモデル地域とし、「みどりの風の道」エリアの形成をめざし、公有地や民有地での植樹を行うとともに、御堂筋等において都市の賑わいづくりや環境、景観の改善を図るために花飾り等を行いました。

また、都市と自然に関する普及啓発を目的として、「みどりの風フォーラム」や「みどりの交流広場」を開催しました。さらに大阪府内の公園や植物園において開催されるイベントへの協力を行いました。

●事業名称	●詳細	●事業名	●内容
みどりの風を感じる都市支援事業	地域団体、地方自治体と協働したみどりの風の道植樹運動	鶴見緑地内植樹 企業参画による生き物に配慮した庭園づくり等	中国庭園東エリア 鶴見緑地国際庭園整備（企業参加による庭園づくり）
		みどりの風促進区域近傍 緑の一里塚	石津元町地区（寝屋川市） 柏木市宮住宅前（松原市）
		みどりの風の道近傍民有地緑化	みどりの風の道促進区域植樹協力支援

●事業名称	●詳細	●事業名	●内容
みどりの風を感じる都市支援事業	「みどりの風の道」シンポジウム等	シンポジウム・フォーラム等	みどりの風フォーラム 日時:平成24年11月2日 午後1時～5時 場所:大阪市中央公会堂 共催:毎日新聞社 参加者:420名
		市民交流の場づくり	みどりの交流広場 日時:平成25年2月17日 午後0時30分～5時30分 場所:花博記念ホール 協力:生き生き地球館 参加者:120名
		展示物による普及啓発	みどりの風の道の普及啓発に係るジオラマを製作、展示
花とみどりを生かした賑わい空間支援事業	都市の花飾り等	地方自治体、地域団体と協働で実施する花飾り	八軒家浜地区 中之島ガーデンブリッジ 堺駅前地区 北梅田地区(鶴野・茶屋町)
		地域の企業、商店等と協働で実施する花飾り	御堂筋(6企業等) 三休構筋(6店舗) 周防町通(14店舗) 長堀通(1店舗)
	地域と連携した普及啓発活動等	「御堂筋kappo」への出展	8,352株の花苗によるフラワーカーペットを出展 日時:平成24年10月14日 正午～4時 場所:大阪御堂筋新橋北交差点付近
都市と自然環境に関する普及啓発事業	植物園と連携したイベント開催等	公園内イベント協力	服部緑地都市緑化植物園 八幡屋公園
	高校生フォーラム(自然と人間との共生フォーラム)	世界的な知識人を招いてのフォーラム等	コスモス国際賞の受賞者を招いて「エル・おおさか」にて開催(平成24年11月1日)

#### ◆その他の普及啓発

##### 都市緑化推進運動

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

春の都市緑化推進運動期間(4～6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護のつどい」や都市緑化キャンペーン活動等の事業を支援するため、都市緑化推進運動協力会に参加し、協力等を行いました。

##### 後援等一覧

●催事名(開催時期)	●開催場所	●主催	●名義等
第13回国際バラとガーデニングショウ(H24.5.12～5.15、H24.5.17～5.20)	西武ドーム(埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショウ組織委員会	後援
大阪ばら祭2012(H24.5.18～5.20)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	財団法人大阪市スポーツ・みどり振興協会	後援 会長賞
平成24年度「まちづくり月間」(H24.6.1～6.30)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
平成24年度「都市緑化月間」(H24.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
フラワーフェスティバルin近畿2012(H24.10.26～10.28)	花博記念公園鶴見緑地・水の館ホール(大阪市鶴見区)	フラワーフェスティバルin近畿実行委員会	後援 会長賞
第67回日本おもと名品展(H24.12.8～12.9)	メルパルクNAGANO「イベントホール」(長野県長野市)	公益社団法人日本おもと協会	後援 会長賞
平成24年度大阪府立花の文化園幼児・小中学生花の絵画展(H25.1.5～2.3)	大阪府立花の文化園(大阪府河内長野市)	一般財団法人大阪府みどり公社	後援 会長賞
淡路夢舞台ラン展2013(H25.1.19～3.10)	兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」(兵庫県淡路市)	株式会社夢舞台	後援
小品盆栽フェア「第21回春雅展」(H25.3.22～3.24)	花博記念公園鶴見緑地・水の館ホール(大阪市鶴見区)	春雅展実行委員会	後援 会長賞

普及啓発・  
継承発展  
事業

花と緑に関する調査研究等の推進

平成25年度 助成対象の決定 花の万博の理念の継承発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援するため、平成25年度の助成対象を決定しました。

〈公募〉

公募期間：平成24年10月1日（月）～11月12日（月）

応募件数：77件

〈審査〉

審査期間：平成24年12月～平成25年2月

〈決定〉

助成審査会の審査結果報告をもとに、理事長が決定した助成対象20件を平成25年3月26日（火）開催の第76回理事会の報告を経て、主催団体に通知しました。

平成24年度  
助成対象一覧

平成24年度に実施された15件の事業について助成しました。

● 事業区分	● 助成対象事業名	● 助成対象団体名
調査研究開発	ミャンマー連邦における植物多様性保全	財団法人 高知県牧野記念財団
	東日本大震災における被災地社叢調査	NPO法人 社叢学会
	四国における二ホンザルの分布状況の把握	NPO法人 四国自然科学科学研究センター
	河北湖の生物調査と河北湖レッドデータブックの作成	NPO法人 河北湖湖沼研究所
	屋久島における人と自然の関係史と保全状況の市民調査	屋久島まるごと保全協会
	JAPANESE HORTICULTUREの刊行	JAPANESE HORTICULTURE刊行準備委員会
	外来種ヌートリアの密度制御と植生回復の実践的研究	外来種生態管理研究会
	活動・行催事	大阪・北の森:オオクワガタ里親活動
北上南部の自然を活用するための連続シンポジウム実施	特定非営利活動法人 山の自然学クラブ	
波松海岸の植生保護（保全）増殖・景観保護	特定非営利活動法人 awarart	
里山に自生する山野草の保全と管理	里山の山野草を守る会	
「仮設住宅×緑のカーテン」プロジェクト	特定非営利活動法人 緑のカーテン応援団	
少年少女自然科学教室—花と昆虫教室—	樹の子クラブ	
第23回全国植サミット沖縄大会開催運営活動事業	沖縄植協	
こまおかの森 げんきづくり事業	札幌市立駒岡小学校 緑の少年団	

平成24年度  
主な助成対象事業



河北湖の生物調査と河北湖レッドデータブックの作成



北上南部の自然を活用するための連続シンポジウム実施



里山に自生する山野草の保全と管理



少年少女自然科学教室—花と昆虫教室—

**花博記念協会助成事業審査会委員** 平成25年3月31日現在

委員長	近藤 公夫	奈良女子大学名誉教授
副委員長	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授
委員	今西 英雄	JFTD学園日本フラワーカレッジ校長
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長村 智司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校校長
委員	服部 明世	前財団法人都市緑化技術開発機構理事長
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授

**協会事業の情報発信**

**ホームページ等の運営・管理** 事業の理解促進・普及のために協会ホームページ及びコスモス国際賞、KOSMOSフォーラムの各ウェブサイトを活用するとともに、公益法人移行を踏まえホームページを一新しました。また、各種報告書、パンフレットを作成し、配布しました。

**コスモス国際賞の広報** コスモス国際賞の広報のため、総合月刊誌「WEDGE」にコスモス国際賞の概要と2012年受賞者の業績を掲載しました。



最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成しました。



## 2012年度事業実績

### 普及啓発・ 継承発展 事業

#### プレスネット ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施しました。

#### 毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」

場 所：吹田市立桃山台小学校（大阪府吹田市）  
内 容：バタフライガーデン、椎茸ランド、カブトムシハウス

場 所：奈良市立佐保小学校（奈良県奈良市）  
内 容：バタフライガーデン

場 所：宇治黄檗学園 宇治市立宇治小学校・黄檗中学校（京都府宇治市）  
内 容：トンボ池

場 所：箕面市立彩都の丘小学校（大阪府箕面市）  
内 容：彩都の森づくり



#### フラワー カーペット

球根育成のため、廃棄されるチューリップの花5万球（30万枚）を用いて、約100名のボランティアの協力のもと、地上に巨大花絵を制作しました。デザイン画は、しろきた福祉作業所の皆さんと、大阪信愛女学院短期大学の学生が描いたものです。併せて、大阪市信用金庫の協賛で「花すきんちゃん」を花で描く「デコレーションボード（2.7m×2.7m）」も設置しました。

また、期間中は、会場内に募金ブースを設置し、募金協力者には近畿地方の花き生産者から贈られた花苗を進呈しました。集まった440,275円は、東日本大震災の被災地復興のため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に寄付しました。

日 時：平成24年5月3日（木・祝）～5月6日（日）

場 所：花博記念公園鶴見緑地中央通

規 模：約100㎡（20m×5m・1面）

同時開催：大阪信愛女学院小・中学校吹奏楽部、鶴見区音楽団、鶴見区老人クラブ連合会、大阪市立鶴見商業高等学校軽音楽部によるコンサートやフォークダンスなどのイベント





理事会 2012年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第73回理事会	平成24年 6月25日(月)	経団連会館 (東京都千代田区)	平成23年度事業報告及び収支決算の件 平成24年度収支予算の補正の件 理事長及び専務理事の辞任に伴う役員退職手当の支給の件 理事長及び専務理事の選任の件 役員報酬の件
第74回理事会	平成24年 7月23日(月)	ホテルニューオータニ (東京都千代田区)	2012年(第20回)花の万博記念「コスモス国際賞」 受賞者の承認の件
第75回理事会	平成24年 9月10日(月)	経団連会館 (東京都千代田区)	公益財団法人移行に伴う申請書類の件
第76回理事会	平成25年 3月26日(火)	日本工業倶楽部 (東京都千代田区)	平成24年度収支予算の補正の件 平成25年度事業計画及び収支予算の件 コスモス国際賞及び助成事業の関連規程の改正の件 資産運用管理規程等の制定の件 平成25年度資産運用方針書の件

評議員会 2012年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第38回評議員会	平成24年 4月13日(金)	東京八重洲ホール (東京都中央区)	理事の選任の件 その他
第39回評議員会	平成24年 6月21日(木)	新大阪フシントン ホテルプラザ (大阪市淀川区)	平成23年度事業報告及び収支決算の件 平成24年度収支予算の補正の件 理事改選の件
第40回評議員会	平成24年 9月6日(木)	ホテルラフォーレ新大阪 (大阪市淀川区)	公益財団法人移行に伴う申請書類の件
第41回評議員会	平成25年 3月18日(月)	梅田グランドビル (大阪市北区)	平成24年度収支予算の補正の件 平成25年度事業計画及び収支予算の件 公益財団法人移行に伴う役員の選任の件

2012年度決算

貸借対照表総括表 平成25年3月31日現在

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 資産の部</b>					
1. 流動資産					
現金預金	221,568,412				221,568,412
未収金	74,090,128			△74,090,084	44
未収収益	1,331	64,500,448	9,589,636		74,091,415
有価証券	24,714,000				24,714,000
前払金	100,560				100,560
流動資産合計	320,474,431	64,500,448	9,589,636	△74,090,084	320,474,431
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産定期預金			30,000,000		30,000,000
基本財産投資有価証券			800,000,000		800,000,000
基本財産合計	0	0	830,000,000	0	830,000,000
(2) 特定資産					
退職給付引当資産	42,749,300				42,749,300
記念基金		8,315,638,500			8,315,638,500
特定資産合計	42,749,300	8,315,638,500	0	0	8,358,387,800
(3) その他の固定資産					
什器備品	7,357				7,357
その他の固定資産合計	7,357	0	0	0	7,357
固定資産合計	42,756,657	8,315,638,500	830,000,000	0	9,188,395,157
資産合計	363,231,088	8,380,138,948	839,589,636	△74,090,084	9,508,869,588

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>II 負債の部</b>					
1. 流動負債					
未払金	79,886,717	64,500,448	9,589,636	△74,090,084	79,886,717
預り金	2,151,342				2,151,342
賞与引当金	2,931,707				2,931,707
流動負債合計	84,969,766	64,500,448	9,589,636	△74,090,084	84,969,766
2. 固定負債					
退職給付引当金	42,749,300				42,749,300
固定負債合計	42,749,300	0	0	0	42,749,300
負債合計	127,719,066	64,500,448	9,589,636	△74,090,084	127,719,066
<b>III 正味財産の部</b>					
1. 指定正味財産					
寄付金		9,200,000,000	800,000,000		10,000,000,000
基本財産運用益			30,000,000		30,000,000
特定資産運用益		362,008,000			362,008,000
特定資産評価差額		△1,246,369,500			△1,246,369,500
指定正味財産合計		8,315,638,500	830,000,000		9,145,638,500
(うち基本財産への充当額)			(830,000,000)		(830,000,000)
(うち特定資産への充当額)		(8,315,638,500)			(8,315,638,500)
2. 一般正味財産	235,512,022	0	0	0	235,512,022
正味財産合計	235,512,022	8,315,638,500	830,000,000	0	9,381,150,522
負債及び正味財産合計	363,231,088	8,380,138,948	839,589,636	△74,090,084	9,508,869,588

正味財産増減計算書総括表 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益			39,492,042		39,492,042
基本財産受取利息			39,492,042		39,492,042
特定資産運用益	102,809	359,146,987			359,249,796
特定資産受取利息	102,809				102,809
記念基金受取利息		359,146,987			359,146,987
雑収益	853,668				853,668
受取利息	250,859				250,859
宿舍使用料収益	60,000				60,000
雑収益	542,809				542,809
他会計からの繰入額	398,639,029			△398,639,029	0
基本財産会計からの繰入額	39,492,042			△39,492,042	0
記念基金会計からの繰入額	359,146,987			△359,146,987	0
有価証券評価益	1,296,000				1,296,000
有価証券評価益	1,296,000				1,296,000
経常収益計	400,891,506	359,146,987	39,492,042	△398,639,029	400,891,506
(2) 経常費用					
事業費	298,606,200				298,606,200
記念事業費	110,397,470				110,397,470
普及啓発費	166,085,954				166,085,954
20周年事業費	22,122,776				22,122,776
管理費	70,177,518				70,177,518
人件費	45,157,064				45,157,064
管理諸費	25,020,454				25,020,454
他会計への繰出額		359,146,987	39,492,042	△398,639,029	0
一般会計への繰出額		359,146,987	39,492,042	△398,639,029	0
経常費用計	368,783,718	359,146,987	39,492,042	△398,639,029	368,783,718
当期経常増減額	32,107,788	0	0	0	32,107,788
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	32,107,788	0	0	0	32,107,788
一般正味財産期首残高	203,404,234	0	0	0	203,404,234
一般正味財産期末残高	235,512,022	0	0	0	235,512,022
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
特定資産運用益		615,646,987			615,646,987
記念基金受取利息		359,146,987			359,146,987
記念基金投資有価証券償還益		256,500,000			256,500,000
特定資産評価益		465,551,100			465,551,100
記念基金投資有価証券評価益		465,551,100			465,551,100
一般正味財産への振替額		359,146,987			359,146,987
一般正味財産への振替額		359,146,987			359,146,987
当期指定正味財産増減額	0	722,051,100	0	0	722,051,100
指定正味財産期首残高	0	7,593,587,400	830,000,000	0	8,423,587,400
指定正味財産期末残高	0	8,315,638,500	830,000,000	0	9,145,638,500
<b>III 正味財産期末残高</b>	235,512,022	8,315,638,500	830,000,000	0	9,381,150,522

キャッシュ・フロー計算書総括表 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 事業活動によるキャッシュ・フロー</b>					
1. 事業活動収入					
基本財産運用収入			39,470,295		39,470,295
基本財産利息収入			39,470,295		39,470,295
特定資産運用収入	103,291	368,766,083			368,869,374
記念基金利息収入		368,766,083			368,766,083
特定資産利息収入	103,291				103,291
雑収入	852,424				852,424
受取利息収入	249,615				249,615
宿舎使用料収入	60,000				60,000
雑収入	542,809				542,809
他会計からの繰入金収入	408,236,378			△408,236,378	0
基本財産会計からの繰入金収入	39,470,295			△39,470,295	0
記念基金会計からの繰入金収入	368,766,083			△368,766,083	0
事業活動収入計	409,192,093	368,766,083	39,470,295	△408,236,378	409,192,093
2. 事業活動支出					
記念事業費支出(配賦前)	83,947,531				83,947,531
普及啓発費支出(配賦前)	81,096,561				81,096,561
20周年事業費支出(配賦前)	19,495,318				19,495,318
人件費支出(配賦前)	109,393,359				109,393,359
管理諸費支出(配賦前)	32,557,307				32,557,307
他会計への繰入金支出		368,766,083	39,470,295	△408,236,378	0
一般会計への繰入金支出		368,766,083	39,470,295	△408,236,378	0
事業活動支出計	326,490,076	368,766,083	39,470,295	△408,236,378	326,490,076
事業活動によるキャッシュ・フロー	82,702,017	0	0	0	82,702,017
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入	6,880,000				6,880,000
退職給付引当資産取崩収入	6,880,000				6,880,000
特定資産償還収入		1,050,000,000			1,050,000,000
記念基金投資有価証券償還収入		1,050,000,000			1,050,000,000
投資活動収入計	6,880,000	1,050,000,000	0	0	1,056,880,000
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	2,549,600	1,050,000,000			1,052,549,600
退職給付引当資産取得支出	2,549,600				2,549,600
記念基金定期預金取得支出		1,050,000,000			1,050,000,000
投資活動支出計	2,549,600	1,050,000,000	0	0	1,052,549,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,330,400	0	0	0	4,330,400
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>					
財務活動によるキャッシュ・フロー					
IV 現金及び現金同等物の増減額	87,032,417	0	0	0	87,032,417
V 現金及び現金同等物の期首残高	134,535,995	0	0	0	134,535,995
VI 現金及び現金同等物の期末残高	221,568,412	0	0	0	221,568,412

財団の概要 (平成25年4月1日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年 (平成3年) 11月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員

平成25年4月1日現在 (50音順)

評議員	青木保之	(学) 東洋女子学園理事
評議員	小河保之	大阪府副知事
評議員	金田章裕	大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長
評議員	崎元利樹	日本放送協会大阪放送局長
評議員	佐藤茂雄	大阪商工会議所会頭
評議員	佐藤友美子	(公財) サントリー文化財団上席研究フェロー
評議員	田中清剛	大阪市副市長
評議員	土井元章	京都大学農学研究科教授
評議員	羽田光一	(公社) 日本家庭園芸普及協会会長
評議員	畑中孝晴	(財) 日本花普及センター評議員
評議員	正木啓子	大阪ガス(株) 近畿圏部顧問
評議員	増田昇	大阪府立大学生命環境科学研究科教授
評議員	松下正幸	(公財) 松下幸之助記念財団理事長

任期:平成25年4月1日より4年後の定時評議員会  
(予定:平成29年6月)の終結の時まで

役員

平成25年4月1日現在 (50音順)

会長	今井敬	(一社) 日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫	阪急阪神ホールディングス(株) 代表取締役社長
専務理事	宮前保子	常勤
理事	今西英雄	大阪府立大学名誉教授
理事	輿水肇	明治大学農学部教授
理事	本間和枝	(公財) 宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	京都学園大学バイオ環境学部教授
理事	和田新也	国際園芸家協会(AIPH) 日本代表
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良殷	(公財) 関西・大阪21世紀協会理事長

理事の任期:平成25年4月1日より2年後の定時評議員会  
(予定:平成27年6月)の終結の時まで

監事の任期:平成25年4月1日より4年後の定時評議員会  
(予定:平成29年6月)の終結の時まで

顧問

平成25年6月5日現在 (50音順)

豊蔵一	
中川和雄	大阪日韓親善協会会長
牧野徹	(財) 日本住宅総合センター理事長

任期:平成25年6月5日から2年間

参与

平成25年6月5日現在 (50音順)

泉真也	環境プロデューサー
岩槻邦男	東京大学名誉教授
小林庄一郎	関西電力(株) 顧問
佐々木正峰	(独) 国立科学博物館顧問
中村桂子	JT生命誌研究館館長
長倉三郎	前日本学士院長
波多野敬雄	(学) 学習院院長
松本洋	(財) 国際文化会館理事
ルイ・サトウ	在仏建築家

任期:平成25年6月5日から2年間

協会事務局 (TEL : 06-6915-4500、FAX : 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL : 06-6915-4500)  
〈評議員会・理事会関係、予算・決算、基金運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL : 06-6915-4516、4513)  
〈コスモス国際賞、助成事業、普及啓発、国際交流、KOSMOSフォーラム、コスモスセミナー等〉

### 顕彰事業

#### 1. 2013年(第21回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2013年(第21回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成25年度は、2013年の受賞者の選考、決定及び2014年(第22回)の選考準備を行います。2013年の受賞者は7月下旬を目途に決定し、11月7日に授賞式を開催します。

また、「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期：平成25年11月上旬

開催場所：東京と大阪の2カ所

#### 2. BIEコスモス賞

国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞について次回の授賞が予定されているミラノ万博での実施をBIEと調整します。

#### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として実施されている花のまちづくりコンクール推進協議会に参画します。

### 助成・協働事業

#### 1. 調査研究、行催事等助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を引き続き行います。

#### 2. 花とみどりの復興活動支援事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、引き続き「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行います。

#### 3. 地域の団体・住民等との協働事業

平成25年度は、平成24年度に引き続いて、大阪をモデル地域として、地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し、公有地・民有地での植樹を行うとともに、御堂筋等において都市の賑わいづくりや環境・景観の改善をめざし、花飾りを行います。

さらに、この事業の評価、検証を行い、全国各地で応用できるよう、その成果を公表します。

### 普及啓発・国際交流事業

#### 1. コスモスセミナー等による次世代育成事業

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、協会事業に関係する学者、知識人等を講師に招き、セミナー(自然観察教室、小学校への講師派遣)を引き続き実施します。

また、毎日新聞大阪本社との共催による学校ビオトープ事業「小・中学校生態園づくり」も実施します。

#### 2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、小中学校における副読本等を活用したモデル授業の実施に支援を行います。

#### 3. 生き物共生まちづくり普及啓発事業

生き物と共生するまちづくりのあり方や個人の生活と生物多様性の関係性などを解説した「手引き」を、当協会が実施するイベント等で無料配布します。

#### 4. 「都市緑化推進運動」・「まちづくり月間」に対する協力

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のまちづくりを推進する「まちづくり月間」に対し、協力を行います。

#### 5. 花の万博開催の地元における普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で開催される「都市緑化フェア」などの普及啓発イベントに協力します。

また、緑のまちづくりに貢献する建物や緑化活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」の実施の共催します。さらに、公園の利用・活用方法の紹介等を内容とする情報誌を作成、配布します。

#### 6. KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学の各分野を越えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを引き続き開催します。

#### 7. 協会ホームページの運営等

協会が実施する事業への理解促進及び普及のため、協会のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレット及び年次報告書等を作成します。

#### 8. その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

### 調査研究・資料収集事業

#### 1. 生物多様性関連施策の実態と効果等に関する調査

国や地方公共団体が講じた施策や事業の実態を把握し、生物多様性の保全が地域、国土づくりに果たす役割や課題を調査・検討し、協会事業のより実効性のある取組みにつなげます。

#### 2. 里山における共生に関する調査

生物多様性の宝庫と言われる里山や、そこにつながる都市近郊の緑の再生や整備などの活動等について調査・資料収集を行います。

また、大学等研究機関や東北地方の活動団体と連携し、東北地方地域の花と緑に関わる伝統的文化に関する文献・事例調査を行い、復興まちづくりにも役立つ内容として冊子にとりまとめます。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp>

表紙の写真：「スマレ」

2012年(第20回)コスモス国際賞授賞式に用いたコサージ・ブートニアです。スマレは、受賞者の研究テーマである「アリ」が好む誘因物質(エライオソーム)を種子に持ち、「播散布」と言われる共生関係により種の拡散をはかります。